

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370206

研究課題名(和文) 大和・紀伊における巡礼空間とその資料についての文献学的研究

研究課題名(英文) A Philological Study on Sacred Place and Texts in Kishu Area

研究代表者

大橋 直義(OHASHI, NAOYOSHI)

和歌山大学・教育学部・准教授

研究者番号：50636420

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：紀伊半島における巡礼の特質を探るため、その巡礼記・参詣記や、それに関連する寺社の縁起、私撰国史などについて、文献学的調査を行なった。その過程で、特に道成寺の経蔵内に伝存する縁起・古典籍・古文書類に着目し、その研究成果は論文・著書のみならず、展覧会という形で社会に還元した。その他、粉河寺・興国寺・長保寺といった和歌山県内の古刹に伝存する古典籍類の調査も並行して進め、新たな貴重資料を見いだすことができた。また、扶桑略記の伝本研究・本文研究についても大きな成果を残すことができた。

研究成果の概要(英文)：I philologically researched pilgrimage texts, engi texts and history books compiled privately for the understandings of the properties of Kishu area's pilgrimage. Through that process, I focused on the books stocked in Dojoji temple. The result developed an exhibition about Dojoji. I researched the books stocked in other temples in Kishu area such as kokawa-dera, koukokuji and chouchouji as well. And I produced results of philological researching Fusoryakuki.

研究分野：中世日本文学・文献学

キーワード：巡礼記 参詣記 縁起 私撰国史 歴史叙述

1. 研究開始当初の背景

第一に、代表者が応募以前に検討を重ねてきた南都の巡礼記以外にも四国・西国・熊野・高野山等の巡礼・参詣の「記」が存在することは知られているが、それら著名な巡礼地・聖地・霊地についての「記」についてさえ、その全貌は明らかになっておらず、ましてや時代を近世期まで下らせたなら、地方の「ミニ巡礼地」と呼びうる空間の巡礼記・参詣記が未紹介のまま放置されていることである。これらの全体像を明らかにすべく、基礎的な文献学的検討を加えることは、文学研究のみならず、隣接諸分野の研究にも資し、また国外の巡礼についての「学」との照応も可能とするはずだ。第二に、代表者のこれまでの研究成果によって、巡礼記・参詣記が巡礼主体以外にとっても「古典」としての意味を有することが明らかになった以上、軍記物語・私撰国史等の他の歴史叙述文献や寺社の縁起とその集との間の引用・被引用の関係についてさらに検討を進める必要がある。このことによって、中世日本における歴史認識・空間認識のありかたについての知見に新たな地平を拓くことは間違いない。第三に、そこに記される巡礼空間の諸言説は、本縁起のみならず、堂衆・行人・聖が個別の堂舎や仏像等について保持したのものも含まれ(例えば「古老伝」等として引用される)これを理解し、巡礼・参詣が行われた場の実態を明らかにするためには、その寺社あるいは周辺の塔頭寺院等の経蔵に伝存する資料を併せて検討する必要がある。

このような目論みの下、平成24・25年度研究活動スタート支援:「巡礼記・参詣記についての文献学的研究 院政期の南都・熊野・高野を中心に」なる研究計画を起案し、その延長上に本研究計画を位置づけるが、未だ巡礼記・参詣記の全体像を明らかにするには及ばず、むしろそのために、南都・熊野・高野の周縁に位置する巡礼空間 例えば粉河寺・紀三井寺やその塔頭寺院・鎮守社によって形成される空間とそれらのネットワークのあり方(山岳修験の「道」)まで視野に収めつつ、その寺院経蔵文献の調査・検討に着手し始めている。これは寺院経蔵文献の悉皆調査が進展している昨今、その寺社をその内外から見わたすような複眼的視座を構築することにも連なる課題でもある。

2. 研究の目的

日本国内には、南都・西国三十三箇所・熊野といった巡礼地、霊地が数多く点在し、同時に、その拠点となる寺院空間の内外には、鎮守社や複数の堂舎、塔頭寺院、往古の人々の足跡を巡りつつ伽藍の深奥に至る参詣路やミニ霊場等の「小巡礼空間」が重層的に広がっている。これらの内、殊に大和・紀伊両国における大小の巡礼空間に注目する本計画では、第一に、未だ資料目録すら完備されていない、各地の特殊文庫等に伝存する巡礼

記・参詣記について文献学的検討を行う。第二に、そこに記される堂舎・什物の縁起説や巡礼空間そのものについての言説を明らかにすべく、両国内の複数の寺院経蔵内文献についての基礎的調査を行う。このような本計画は、巡礼・参詣とその「記」についての研究が文学及び隣接諸学においてさらに伸展するための素地となることを目指すものである。

3. 研究の方法

第一に図書館・特殊文庫・寺院経蔵に収蔵される巡礼記・参詣記およびその関連資料の博搜・調査に始まる文献学的検討と目録化。第二に、南都・高野・熊野といった巡礼空間に近接する、大和・紀伊両国に存する寺院のうち、多くの書籍が伝存しながらも未だ調査の手が及んでいない寺院経蔵とその内実を把握し、さらなる調査検討のための経路を獲得すること。第三に、如上の手順を経て知りえた諸資料に対してその言説分析を行い、他の縁起集・軍記物語・私撰国史や絵画資料などとの関連のありかたを理解するための、巡礼記・参詣記データベース構築に向けた基礎的作業を行うことである。

4. 研究成果

研究期間を通じ、次のような研究成果を得た。

第一に、熊野参詣道の途上にあり、また西国三十三箇所巡礼の途上にもあたる道成寺に蔵される経蔵文献の悉皆調査という成果である。道成寺については、重要文化財『道成寺縁起絵巻』の存在が極めて広く知られるものであるが、実は、その他の縁起関連典籍、不完全ながらも一度は簡略に目録化された近世文書と、さらにはこれまで調査されてこなかった古典籍からなる一大アーカイブを有している。これらの調査を進めることによって、中世後期から近世期にかけ、熊野三山信仰等といかに折り合いをつけながら、寺勢を維持してきたのかということが明らかになってきた。また、道成寺に関連しては、2016年11~12月にかけ、和歌山大学紀州経済史文化史研究所における特別展として「道成寺の縁起-伝承と実像」を開催し、『道成寺縁起絵巻』の絵解きと、いわゆる安珍・清姫の物語にかかわる地域への伝承の伝播のありかた、また江戸時代を通じて行なわれた、人形浄瑠璃や神楽、長唄などへのメディア的変容の過程などを丹念に意義づけた。さらに、これまでほとんど注目されてこなかった、真の意味での「道成寺縁起」(道成寺の創建縁起)が寺内においていかに扱われていたのかという点について、寺の内外の資料を紹介・精査し、その成果を図録・論文というかたちで明らかにしえたことは極めて有意義であった。加えて、いまだ途上ながらも、道成寺蔵近世文書群悉皆調査の中間報告としての意味をも有していた。このような展覧会を企画

し、さらにその成果物としての図録と関連論文を著したことは、学界のみならず、広く一般にその意義を周知しえた点は特筆に当たります。その研究成果としては、同特別展において作成した特別展図録に掲載されたものの他、「道成寺建立縁起」考および「中世文学研究と「歴史学」の交錯」の二編において、若干の考察を加えたものがあげられる。いずれにせよ、近隣の関連寺院など、さらなる調査分析を進めることによって、より大きな成果が得られるものと期待される。

第二に、主に紀伊国における古刹（粉河寺・興国寺・長保寺）における縁起を始めとした蔵書群の検討である。特に粉河寺に関しては、これまで全く注目されてこなかった中世後期の縁起を紹介し、その時期における三十三箇所巡礼と縁起説との関わりについて、その一端を開示することができた。その資料とは、「粉河寺御池海岸院縁起」「粉河寺発基以来記」の二篇であるが、殊に前者と関わって、延慶本『平家物語』の独自記事として検討が進められてきた「平維盛粉河寺巡礼記事」について、その成立期と粉河寺本坊である御池坊の勃興期が重なること、その縁起説形成の背景に紀伊国由良興国寺の関与が認められることが指摘しえた。加えて、資料的な制約から、これまではその位置づけが困難であった室町期の動向について、僅かなりとも追加しえた点についても特筆すべきであろうか。その成果は、「紀州地域学というパースペクティブ 根来寺と延慶本、平維盛粉河寺巡礼記事について」の他、口頭報告において学会に提示したが、粉河寺を含めたこれらの寺院の調査はいまだ途上にあり、今後のさらなる研究進展が見込まれると推定される。

第三に、法華寺の縁起説研究、また、扶桑略記を中心とした私撰国史など、院政期から中世後期にかけての歴史叙述関連典籍についての文献学的検討についての成果である。殊に『扶桑略記』については、「『扶桑略記』陽成天皇紀の方法 不戦の軍記 と漢文伝記と」および「伝記への執心 『扶桑略記』の歴史叙述、一隅」において、その性質の一端に言及することができた。すなわち、『扶桑略記』はその歴史を叙述するにあたって、人びとの伝記（特に漢文伝記）に注目し、それぞれの伝記を「考証」によって連関させつつ、その時代を描こうとするという特質である。しかしながら、『扶桑略記』諸伝本の定位、逸文の蒐集もいまだ途上であるどころか、研究者が依拠する新訂増補国史大系本の底本：文政三年刊本の成立事情（その段階で別々に伝来した伝本を取り合わせたことはほぼ確実である）すらも明らかになっておらず、その説話文学研究での位置づけの重要さという観点からも、今後、重点的に検討を行なってゆくべきものと考えられる。

以上のように、本研究計画によって、新たな資料・知見を学界・社会に提示することが

できたものの、いずれについても研究進展の糸口をたぐりよせた段階であり、今後のさらなる調査研究が必要であると考えられるが、その端緒として本研究計画を位置づけるなら、長期的にみて意義の大きなものであるととらえるべきであろう。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計1件)

大橋直義、「『扶桑略記』陽成天皇紀の方法 不戦の軍記 と漢文伝記と」、岩波書店『文学』16巻2号、2015、88-105、査読無（依頼論文）

〔学会発表〕(計8件)

大橋直義「花山院長親（耕雲明魏）と紀州地域の寺社縁起 霊巖寺縁起・衣奈八幡宮縁起をめくって」、和歌山大学紀州経済史文化史研究所 2016年度公開シンポジウム「紀州地域の寺社縁起」、キャンパスイノベーションセンター東京（東京都港区）、2016

大橋直義「粉河寺縁起にみる聖地の形成と展開 「童男行者」をめくって」、紀州地域学共同研究会第3回研究集会公開シンポジウム「信仰空間・聖地の創出」、和歌山県立博物館（和歌山県和歌山市）、2016

大橋直義「法華寺縁起考」、関西軍記物語研究会、大谷大学（京都府京都市）、2016

大橋直義「『扶桑略記』陽成天皇紀の歴史観」国文学研究資料館共同研究「歴史叙述と文学」第5回研究会、国文学研究資料館（東京都立川市）、2015

大橋直義「伝記への執心 『扶桑略記』のある側面について」、国際日本文化研究センター共同研究「説話文学と歴史史料の間に」第二回例会、国際日本文化研究センター（京都府京都市）、2015

大橋直義、「西国巡礼研究への一視点 紀州研新収資料『西国巡礼道中笑草』の紹介をかねて」、紀州地域学共同研究会4回例会、和歌山大学（和歌山県和歌山市）、2015

大橋直義、「『扶桑略記』『水鏡』における僧伝・縁起説についての二、三」、国文学研究資料館共同研究「歴史叙述と文学」研究会、国文学研究資料館（東京都立川市）、2014

大橋直義、「『扶桑略記』の歴史叙述」、軍記語り物研究会403回例会、法政大学（東京都千代田区）、2014

〔図書〕(計6件)

大橋直義編『根来寺と延慶本『平家物語』
紀州地域の寺院空間と書物・言説』
勉誠出版、2017、244(分担執筆論文：大橋直義
「紀州地域学というパースペクティヴ 根
来寺と延慶本、平維盛粉河寺巡礼記事につ
いて」4~19)

松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘
編『古典文学の常識を疑う』勉誠出版、2017、
227(分担執筆論文：大橋直義「中世文学研
究と「歴史学」の交錯」142~145)

共同研究「歴史叙述と文学」編『研究成果
報告 歴史叙述と文学』、国文学研究資料館、
87(分担執筆論文：大橋直義「伝記への執心
『扶桑略記』の歴史叙述、一隅」27~40)

東悦子・藤田和史編『わかやまを学ぶ 紀
州地域学 初歩の初歩』、清文堂、2017、183
(分担執筆論文：大橋直義「道成寺建立縁
起」考」29~38)

紀州経済史文化史研究所編『2016年度特別
展 道成寺の縁起 伝承と実像』(特別展図
録) 2016、39(分担執筆箇所：大橋直義「第
2章 紀伊半島と聖武王家の女性たち」13~
20、大橋直義「資料編・目録」28~39)

大橋直義・藤巻和宏・高橋悠介(共編)『中
世寺社の空間・テキスト・技芸 「寺社圏」
のパースペクティヴ』、勉誠出版、2014、272
(分担執筆論文：大橋直義「総論 「寺社圏」
のパースペクティヴ」4-8、大橋直義「寺社
の空間と言説 「寺社圏」としての南都に及
ぶ」9-23)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

<http://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/kisyuareastudies/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大橋 直義(OHASHI, Naoyoshi)
和歌山大学・教育学部・准教授
研究者番号：50636420

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()